

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通 1階つる,2階かめ)

事業所番号	2793000197		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら東淀川		
所在地	大阪府大阪市東淀川区東中島 6-8-12		
自己評価作成日	平成31年12月5日	評価結果市町村受理日	平成32年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年3月1日にオープンし地域密着を目指、その人らしい暮らしをして頂ける様に務めております。食材に関しては、魚・肉は地域の商店街から配達をしてくれており、その他の食材は毎日ご利用者様と近隣のスーパーに買い物に行っています。買い物に行った際、食材をみてご利用者様のご要望によりメニューを変更する場合があります。できる限り、季節の物を取り入れています。ボランティアによる、笑いヨガも毎月開催しております。地域の夏祭りの参加も毎年参加しております。季節ごとに、壁画の作業もご利用者様と一緒に作成しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、グループホーム40数か所をはじめ、数多くの各種高齢者施設や保育園を全国で展開しており、当事業所は平成28年3月に開設された。法人の方針として「食」に力を入れており、魚は魚屋の物、肉は肉屋の物にこだわり、利用者と一緒に買い物・調理・食事・片づけをしている。利用者は、散歩や買い出しなどでほぼ毎日外出しており、車での遠出、事業所での外気浴、家族との外出も積極的に支援している。事業所のスローガンを「継続は力なり」とし、ストレスが減って髪が黒くなった利用者や、要介護5で看取り寸前までになった人が要介護2にまで回復した例もある。また、役割分担して日々の活動に積極的に参加してもらい、笑いヨガや体操も新しく取り入れて、ADLの維持・改善に努めており、調査当日も利用者が交代で調査員にお茶を出してくれた。家族との関係は良好で、事業所と家族が一体となって利用者を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行い今日一日理念を踏まえた具体的な行動を職員一人ひとりに確認している。	企業理念と3項目の事業所の運営理念を事務所に掲示し、毎月家族に送付する「生活状況報告シート」(利用者の個別便り)にも記載して周知している。ケア日誌にも企業理念を記載し、毎朝朝礼時に唱和して確認している。また事業所スローガンを「継続は力なり」とし、意識して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩や買い物で、近隣の方と出会うと挨拶を交わしています。自治会で開催される夏祭りには企画会議から参加させていただいています。	利用者はほぼ毎日、散歩や食材の買い出しなどで外出し、地域の人と触れ合う機会が多い。自治会はないが、地域の夏祭りに出店して利用者也参加し、老人会にも参加して交流している。笑いヨガ(毎月)やギター演奏と歌などのボランティアを受け入れている。地域の高齢者世帯の見学を随時受け入れ、事業所の取り組みを説明して相談に乗っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での夏祭りに出店しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者様の意見ご家族様の意見・自治会会長様からの意見を頂き反映させていただいております。	会議は偶数月の第2土曜日に定例化している。地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員・婦人会会長(随時)・薬剤師・看護師(随時)・医師(随時)の他、毎回家族会と同時開催のため、利用者・家族の参加が多く、20名程で会議を開催している。運営状況報告や情報交換の他、15分のスライドショーでの生活状況報告や利用者の話も交え、有意義な会議となっている。	議事録は玄関に置いて開示し、家族が良く目を通してしている。今後は議事録と外部評価結果・目標達成計画を全家族員に配付して、事業所の取り組みへの理解の促進を図ることを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所との連携をとれるよう対応させて頂いています。	市の保健福祉課とは、事故報告や各種申請などで関係している。地域包括支援センターとも日常的に密に連携している。市職員も参加する3か月に1度の区グループホーム連絡会に参加し、情報交換や交流を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を発足し年4回以上の研修を開催している。	「身体拘束廃止マニュアル」と「身体拘束廃止の指針」を作成し、年4回の研修などで職員に周知している。年6回の運営推進会議時に身体拘束廃止防止会議を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。会社の指示により、不審者の侵入防止や利用者の安全確保のため、調査当月から玄関を施錠しているが、頻繁に外出して閉塞感をなくすよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し関心と理解を深めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し関心と理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明と時間をかけた契約を心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、苦情箱を設けています。運営推進会議にて質問等のあった場合は丁寧な説明を心がけています。	毎日利用者誰かの家族が訪れ、全く家族が訪れない人はおらず、訪問時には利用者の状況を報告し、意見・要望を聞くよう努めている。2か月に1回の運営推進会議・家族会には参加者が多く、要望があれば運営に反映している。担当職員が毎月作成する「生活状況報告シート」に利用者の生活状況と健康状態を記載し、事業所からのお知らせと共に家族に配付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を実施しています。 年2回の懇親会を予定しています。	法人の代表取締役やマネージャーが訪れ、職員と話す機会がある。日々のコミュニケーションの中や毎月の全体会議、随時のユニットミーティング、賞与前後の年4回の面談で、職員の意見を把握して反映するよう努めている。職員の利用者担当制を採り、利用者のケアについての意見・要望にも応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与に関しては個人別にフィードバックしています。 会社として、いろんな取り組みを評価して個人に賞を与え、やりがいを持てるように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として毎月研修を実施。外部研修の推進受講料補助等している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会が概ね3か月に1度参加させて頂いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや本人の気持ちを理解すべくコミュニケーションに時間をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調の変化やご様子の電話連絡は随時実施しております。毎月1回は一ヶ月の状況報告を書類にてご報告させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細やかにヒアリングを実施し気持ちの変化や体調の変化に合わせて迅速な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様から教えを乞うことを念頭しており、協力し支えあって生活しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族様にホームでの様子や体調についてお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご親戚、馴染みの方の訪問を面会時間を決めずに訪問をいただいています。	利用者の基本情報で馴染みの関係を把握し、職員間で共有している。親戚やかつての友人、以前のデイサービス施設の友人などが訪れている。馴染みの喫茶店・ファストフード店・商店・量販店・神社へ出かけたり、墓参りする人もいる。1・2階のユニット間を行き交って食事するなど、利用者同士の馴染みづくりを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようさり気なく声をかけさせて頂いています。また、必要な事を居室内で完結しないよう極力リビングにて過ごして頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係終了後1か月後に電話連絡しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行きたい場所や食べたい物の希望をお聞きして実現できるよう支援させて頂いています。職員のみで実施が難しい時はご家族様にもご相談させて頂いております。	入居前の面接時の「利用者情報シート」や、利用者や家族から聞き取った「暮らしの情報シート」に、思い・意向・好みなどを記録し、職員間で共有している。演劇好きの人に鑑賞に出かけてもらったり、行きたい場所(神社など)、食べたい物(天ぷら・ラーメンなど)の要望に応じて喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行きたい場所や食べたい物の聞き実施できるよう支援させて頂いている。また、入居日初日はご本人の食べたい物や好物を用意しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間や就寝時間に制限を設けず自由に過ごして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎月実施されるカンファレンスにて反映している。	アセスメントシート・支援経過記録などを基に、利用者・家族の意向を取り入れ、看護師・医師の意見も随時反映して、サービス担当者会議（管理者・リーダー・計画作成参加者が参加）を開いて介護計画を作成している。計画は、長期目標1年・短期目標半年とし、毎月モニタリングして、半年毎に見直している。計画は、家族の訪問時や電話で説明し、同意を得て実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を丁寧で正確な情報にできるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	観劇に出かけたり、近隣の飲食店に出かけたり大阪城にドライブに出かけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶店や飲食については地域のお店を利用。神社や散歩には近所を利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・精神科は1か月に2度の往診あり。また、急な体調不良には24時間オンコールにて対応させて頂いています。	契約時に、医療体制について利用者・家族に説明して同意を得て、協力医療機関の月2回の内科（全員）や週1回～月1回の歯科・歯科衛生士（希望者）の往診を受けている。契約看護師の週1回の訪問があり、その都度細かいアドバイスを受けている。外部の眼科には家族が同行して受診し、医師から診療情報提供書で結果報告を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問と体調の変化についてはホーム側からの連絡を24時間オンコールにて対応。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中や日々の訪問にて病院の連携室とのコミュニケーションを図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の為の指針を示しています。重度化した際には早期に家族様と十分に話し合いを重ね医療関係者とチームで支援できるよう取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の対応、終末期(看取り)に係る指針」を利用者・家族に説明し、事前確認書を得ている。重度化した場合は、医師からの指示で看取り態勢に入ることにしている。緊急時には看護師と24時間オンコール体制があり、医師ともつながって対応する安心な体制が確立されている。急死した2名の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生のマニュアルに従い訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回以上の研修を実施しています。	「災害発生時対応避難マニュアル」に基づいて、年2回ほぼ全員の職員が加わって、火災時の通報・消火・避難の訓練を行っている。2月には、消防署立ち会いで夜間を想定した避難訓練を予定している。職員のほとんどが自転車で駆け付けられる所に住み、心強く安心感がある。水・缶詰・カセットコンロ・米など2日分を備蓄し、賞味期限もチェックしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し配慮する言葉がけや対応を実施させて頂いている。	プライバシー保護・接遇マニュアル基に研修を行い、たとえ認知症になっても人間としてのプライドやプライバシーを尊重するよう努めている。排泄・入浴時や居室への出入り時には特に注意を払っている。利用者の呼びかけは苗字にさん付けが基本だが、家族の希望により名前のちゃん呼びの人もある。職員の不適切な対応があれば、管理者やユニットリーダーが注意して直している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご希望をお聞きし自己決定できるよう務めさせて頂いている。1日に1回はお一人、おひとりゆっくりお話しさせて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の昔からの生活、環境を把握し個人にて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様、家族様からの情報を元に要望に応じ対応させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた食事や外食の提供。また、食材選びなど楽しい食事ができるよう心掛けています。	毎日の食事には特に力を入れ、各ユニットが独自のメニューを考え、肉・魚・パンは専門店から取り入れ、新鮮な食材が提供されている。事業所の菜園で収穫した季節の食材も用いており、正月にはおせち・カニ鍋・すき焼きを提供し、行事食も利用者のリクエストに対応している。おやつ(芋団子・白玉団子・ホットケーキなど)は週1回手作りして、職員と共に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500カロリーを目安に食事を提供している。水分も1500CCを目安にしている。お茶や牛乳など制限がない限りは自由に選び飲んで頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士が週に1回訪問するのでその際に一人ひとりに合わせて、クリーニングしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレへの誘導、利用を促しています。	利用者毎の排泄チェック表を基に、できる限りトイレでの排泄を促しており、おむつ使用の利用者は1名のみ、リハビリパンツの人も数名のみで、ほとんどの人が自立している。夜間は2時間おきに巡回しているが、睡眠を重視して、リハビリパンツのパッドを大きめな物に替えている。適切な排泄支援で、入院後におむつから自立に改善した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	甘酒や繊維の多い食材を選んでメニューに取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時の状況や希望により入浴している。拒否が続いた場合は声かけや様子を見ながら入浴して頂いています。	週に2~3回午前~午後の入浴が基本だが、失禁時などにはその都度対応し、週4回になる利用者もいる。現在は入浴拒否の人はいないが、無理強いしないで柔軟に対応している。季節の菖蒲湯・ゆず湯や入浴剤などを使って、変化を付けて楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や換気、温度等に配慮し本人様が眠くなった時に就寝を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬カードを使用し間違えのないよう支援しています。時には薬剤師によるお薬の説明を受けたり情報の理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日1回は必ず外の風に当たり外出している。行き交う人々には必ず挨拶をしている。洗濯、調理も無理強いわずできる範囲で実施できるよう対応させて頂いています。余暇の過ごし方も本人様の希望にて自由にお過ごし頂いていおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1日1回は必ず外の風に当たり外出している。行き交う人々には必ず挨拶をしている。洗濯、調理も無理強いわずできる範囲で実施できるよう対応させて頂いています。	外出表があり、車椅子の利用者と自立歩行の人を組み合わせ、買い物や銀行に行ったり、周辺を散歩したり毎日のように外出している。植物の水やり、周辺清掃、洗濯物干しなどで外気に触れている。車で大阪城まで行ったり、食事会・観劇会の日帰りバスツアーをして楽しんでいる。近くの桜並木の花見や藤の花見に弁当持参で行ったり、イベント企画は多様である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニを利用して、ご利用者様が欲しいものを購入して頂いています。財布を持って支払いをしていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきで暑中見舞いや年賀状を作成しています。電話も自由にお使い頂けるようリビングにて設置させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は安全に利用できるよう配慮しています。またソファーでのお昼寝も自由にできるよう対応させて頂いています。	共用空間は夜勤者が掃除を行い、臭いや埃もなく清潔に保たれている。2m程もある廊下には加湿器が置かれている。3人がけのソファーが2脚あり、利用者は時には寝転んだりして自由に過ごしている。時計・日めくりカレンダーや、職員と共に手作りした季節の壁飾り(クリスマス)が飾られ、季節感を採り入れて居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや長椅子等を配置し思い思いに過ごせるよう対応させて頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様のご希望をお聞きし家具等を配置させて頂いています。	ベッド・エアコン・クローゼット・布団が備え付けられ、利用者は思い思いにダンス・鏡台・テレビや家族の写真などを持ち込んで、心地良く過ごせるような工夫が見られる。携帯電話を持ち込んでいる人も2名いる。利用者が簡易清掃器具で清掃し、職員がフォローして清潔に保たれている。風邪気味の利用者の居室には、抗菌作用の水を使用した加湿器が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの利用や洗面は自由にお使い頂けるよう衛生的に管理させて頂いております。		